

自己評価基準 A：目標を高度に達成できた B：目標をほぼ達成できた C：目標を達成できなかった

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

教育活動・目標	方 策	平成31年度の取組と自己評価
<p>①学習指導 ○計画的な学習指導により、学習システムを定着させるとともに、言語活動能力の育成を図り、学習に対する興味・関心、好奇心、意欲を高める。</p>	<p>ア 全ての教科において、言語活動能力の向上に取り組み、「思考力・判断力・表現力」を伸ばす指導内容・方法を研究・実践し、学力の向上を図る。</p> <p>イ 予習・授業・復習、試験・振り返り学習といった学習システムを徹底する。授業の予習に向けて家庭学習時間を確保させ、「定期課題」等により家庭学習を定着させる。また、事後指導も含めた自学・自習の力を育成する。</p> <p>ウ 学力スタンダードを学力向上策として有効に活用するために、身に付けさせる学力を学力スタンダードで明確にし、計画的な学習指導を行う。</p> <p>エ 放課後・土曜日・長期休業中等の講習や補習を充実させ、基礎力の向上、発展的な学力の充実を図る。</p> <p>オ アクティブ・ラーニング型（AL型）の実践的な授業を取り入れた授業の改善を図るとともに、学習指導の効果を高める工夫を行う。</p> <p>カ 教科主任を中心とした教科の組織的運営と定例教科主任会による教科連携の強化を図る。</p> <p>キ 指導教諭の指導の下、専門性の高い教科指導への工夫・改善を行う。</p> <p>ク 生徒の関心や意欲を高める授</p>	<p>ア 各教科、各学年で言語能力の向上に努め、記述すること、発言することに重点を置いた指導を行った。また、ほぼすべての教科においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実践し、生徒の思考力、判断力を育成し、成果が見られている。</p> <p>イ 1学年夏の学校において、予習・授業・復習というサイクルを学ばせた。午前中に授業を行い、午後には教員及びサポートティーチャーの指導の下、予復習を行わせた。また、学習時間調査を1月に行った。1棟の教室を週休日を含めてすべて自習室に開放することにより生徒の授業以外での学習環境を大幅に確保した。自学自習の習慣化、学力の向上との関係には課題がある。</p> <p>ウ 学力スタンダードに基づき発展的な教科指導を行い、学力調査により学力の把握を行った。シラバスを年度当初に配布し、年間の授業計画を示した。1年次では8月に夏の学校を4日間行い学習習慣の定着を図った。</p> <p>エ 各教科、学年内で連携、放課後の講習を実施。土曜特進講習（1・2年）で英数国、土日講習（3年）で英数国理社を実施。長期休業中の進学対策講習は補習・補講委員会を立ち上げ、組織的・計画的に実施した。特進講習の実施日を早めに生徒に伝え、英数国3教科必修ではなく、1科目から受講可能にすることで受講者の便を図り、参加者が増えた。</p> <p>オ 授業力向上の取組として、長期休業中など、予備校講師の授業研究に本校の職員が参加した。また、AL型授業の研究者を招聘し、校内研修を開催した。</p> <p>カ 教科主任会を毎月一回定例開催し、教科主任会のリードの下、組織的な指導体制を強固にした。高大接続改革・大学入試共通テスト委員会を立ち上げ、研究協議を中心として今後の取組を構築している。</p> <p>キ 指導教諭の模範授業参観を呼びかけた。また、他の教員の授業観察を行い授業力向上への助言等を行った。</p> <p>ク ICTを活用し授業を計画、実施する教員が</p>

	<p>業作りとして、積極的にICTを活用した授業実践等を行う。</p>	<p>増えた。新型コロナウイルス感染症対策で臨休休業になった際、ICTを活用した授業を行った。</p> <p>【自己評価 A】</p>
<p>②進路指導・キャリア教育</p> <p>○町高進路指導システムに基づいて、進路指導部と学年等の連携強化を図り、生徒への進路意識を高め、国公立大学、難関私大大学の確実な増加に向けた進路指導を計画的に行う。</p>	<p>ア 「町高進路指導システム」に基づき、進路指導部を中心とした3年間を見通した計画性のある進路指導を行い、検証・改善・工夫を繰り返しながら組織的な進路指導を実践する。</p> <p>イ 学習進路相談を通じて、生徒の自主的な学習、進路先の決定を指導する。</p> <p>ウ 学年分析会、模試分析会、進路研修会を行い、データに基づいた進路指導部、学年、教科のきめ細かい進路指導を行う。また、学年、クラス、部活等で丁寧な学習指導、生活指導、進路指導、保護者指導を行う。</p> <p>エ 早期に進学に対する目標設定を促すため、進路指導部と学年が連携し、HRや学年集会等での情報提供、指導を充実させる。</p> <p>オ 進路講話、進路相談、オープンキャンパス、首都大学東京他との高大連携事業等をより充実させ、進路意識を高め、適切な進路決定を行う。</p>	<p>ア 進路指導部が主体となって、各学年と連携を図り「町高進路システム」に基づき計画的な指導を引き続き行っている。進学先別に卒業生の在学中の成績の一覧を作成し、在校生のモチベーションを高めた。</p> <p>イ HRや総合的な学習の時間での進路学習や、学年担任による年間を通した面談を行い、進路への意識の向上を図った。現状に妥協せず、高みを目指させる指導が今後の課題。</p> <p>ウ 進路指導部と学年だけでなく、他の教員も参加対象とした模試分析、ケース会議を行い、最後まで諦めさせない支援、指導を行い、3年生全体として、センター試験後の講習、個別指導を計画的に実施し、多数の生徒が参加した。センター試験後の講習は、進路指導部が主体となり、全校体制で実施した。</p> <p>エ 進路指導部だより等で1・2年生への情報提供も行い、また各学年からの発信も行った。予備校による校内研修会には多くの教員が参加した。センター試験後の出願指導分析会にも3年担任だけでなく他学年、分掌からも多くの教員が参加した。</p> <p>オ 予定した多くの各進路行事は円滑に実施し効果があった。首都大学東京との高大連携事業によりキャンパス訪問を1学年で実施。2学年では10大学各分野の講師により大学体験授業を実施した。</p> <p>【自己評価 A】</p>
<p>③生活指導・健康づくり</p> <p>○都立高校生活指導方針(規範意識の育成に向けて)に基づきながら、道徳心を行動指針・行動規範として、道徳心を高める指導を行い、誇りと自信のある生徒を育成する。</p> <p>○「総合的な子供の基礎体力向上方策」に基づいた基礎体力の向上や主体的な健康管理を通して、体と心のバランスがとれた逞しい生徒を育成する。</p> <p>○発達障害教育の推進</p> <p>○自他の命を大切にす教育の推進</p>	<p>ア 道徳心のある行動指針・行動規範を指導し、落ち着いた学習環境、高校生としての秩序ある生活を確保させ、挨拶、マナー、服装、頭髪、時間厳守、掃除の徹底等の指導を行う。また、自転車等の交通マナーの遵守を徹底し、交通規範意識を高める。</p> <p>イ チャイム始業終業を厳守させるなど授業規律の徹底を図り、主体的に学ばせる。</p> <p>ウ ホームルーム活動、生徒会活動、部活動などを通して、生徒の自律的活動を支援・指導する。また、個別面談等きめ細かな粘り強い指導を行い、いじめ等のない環境づくりと特別支援教育を推進する。</p>	<p>ア 道徳心を基本とした行動指針・行動規範を大きな視点に立って、組織的に指導した。全校集会、学年集会を生活指導部と学年が連携して、生徒の実態に合った即時的かつ組織的な指導を行った。挨拶、マナー、服装、頭髪の指導は学年がまず取り組み、生活指導部と連携して年間を通して指導した。また、全校集会において、SNSの利用方法等、情報モラルに関する講話やワーキングを行い、その啓発に努めた。</p> <p>イ 全ての授業がチャイムと同時に始まることから、全教員による組織的な指導が年間を通して行われている。</p> <p>ウ ホームルーム活動は学年作成の年間スケジュールの下で計画的に実施された。生徒会活動は、募金活動や地域のイベントへの積極的な参加や広報活動への参加協力など、顧問の指導の下で、自主的な活動を行った。引き続き、いじめのないようしっかりと生徒観察をし、配慮の必要な生徒の対応には資料を用意し</p>

	<p>エ 生徒保健委員会・学校保健委員会を通して、健康教育・環境教育を推進し、生徒の健康管理をする。</p> <p>オ 「総合的な子供の基礎体力向上方策」に基づき、生徒の体力、気力、忍耐力、精神力の育成を図る。</p> <p>カ 個々の生徒の実態を踏まえた発達障害教育の推進を図る。</p> <p>キ 命を大切に教育を推進するため、企画調整会議、生活指導部、教育相談委員会、スクールカウンセラーが密に連携した組織的な指導を行う。</p>	<p>全教員で共有していく。</p> <p>エ 月1回の保健だよりの発行や、行事前後の清掃活動が中心である。生徒の課題意識を育て、自主的な活動へと移行させていきたい。</p> <p>オ 保健体育や部活動だけでなく、学校行事においても生徒の心身を鍛えることを目的とした内容を盛り込み、気力に富んだ逞しい生徒を育成する。</p> <p>カ 対象の生徒・保護者と連携して、SCの助言を参考にしつつ外部機関とも連携して特別支援教育の一層の充実を図る。</p> <p>キ 養護教諭、SC、担任を中心に、密な連携、情報の共有を図り、管理職とともに迅速な対応を心掛けた。教育相談委員会による共有を図り、対応を協議した。</p> <p>【自己評価 A】</p>
<p>④特別活動</p> <p>○「自主自律」「文武両道」の精神を通して、知力・気力・体力を向上させ、「伝統と創造」に基づいた誇れる学校文化の構築を行う。</p> <p>○防災教育を通して、地域社会に貢献できる人材の育成を図る。</p> <p>○オリンピック・パラリンピック教育の推進で精神を涵養する。</p>	<p>ア 学習、学校行事、部活動等を通して、「自主自律」「文武両道」「伝統と創造」の精神を涵養し、社会をリードできる人材の育成を行う。</p> <p>イ 「切替えと集中」でメリハリを付け、学習、部活動と行事に全力で取り組ませ、知力・気力・体力を向上させる。</p> <p>ウ 行事の各実行委員会において生徒自ら責任ある企画、運営、実施、総括ができるよう指導する。</p> <p>エ 地域や関係機関と連携した防災訓練や救命訓練などを通して、自助・共助の精神を醸成する。</p> <p>オ 特別活動などで、オリンピック・パラリンピックの精神を涵養するとともに、スポーツに親しませ、日本の良き伝統・文化について学ぶとともに、持続可能な社会の発展や環境教育を推進する。</p>	<p>ア 学習や部活動の効果を更に高めるために、自ら考え、工夫し「文武両道」を実現すべく、学習・部活動・行事に全力かつ効率的に取り組むように、機会あるごとに指導した。多くの生徒が、その趣旨を理解し、主体的に取り組み、十分な成果を上げた。陸上部がインターハイ出場、管弦楽部が高校総合文化祭、バトントワリング部が関東大会に出場した。</p> <p>イ 各行事の準備、運営にあたっては、生徒の実行委員会を中心に主体的な運営ができるように組織的な指導を行った。学校行事の内容は、年々、工夫がみられ充実してきている。</p> <p>ウ 学校行事では、生徒が地域のあいさつ回りに出向き、学校内外においてPR活動の場を増やし、生徒の姿を見てもらえるように取り組んだ。</p> <p>エ 宿泊防災訓練、上級救命講習では体験、講話を通して、自助、共助の重要な働き手としての高校生の立場を認識させ得た。</p> <p>オ 各教科でも、オリンピック関連に触れる箇所の指導を行った。また、調査探究活動を通して問を立て、課題解決のための主体性を育む取り組みを行った</p> <p>【自己評価 A】</p>
<p>⑤広報・募集活動</p> <p>○特色ある学校の推進を通して、学校の魅力をアピールし、応募倍率の向上に向けて、広報・募集活動を強化する。</p>	<p>ア 中学生・保護者等からより理解を深めてもらえる学校見学会・学校説明会・部活動体験、授業公開の工夫・改善を行い、広報・募集活動の活性化を図る。</p> <p>イ 学校案内の改善や中学校・塾等への定期的な訪問数の増加を図るなど、PR活動を強化・推進する。経営企画室による学校PRの実施。</p> <p>ウ 魅力ある学校生活を発信する</p>	<p>ア 学校見学会、説明会は回数を増して行った。生徒による説明が好評であり、生徒の自覚も高まってきている。学校説明会の来場者数は1,681名で、昨年度を30名ほど下回った。</p> <p>イ 学校案内は大幅な改善を行い効果的に活用した。教員による中学校訪問、塾訪問を並行して行った。今年度は、行政系職員による広報活動（中学校訪問）を行わなかった。</p> <p>ウ Webサイトのデザイン効果を高めるこ</p>

	<p>ために、学校ホームページの適時更新と更新頻度をあげる。</p>	<p>とでリニューアルを行ったことで、大幅な改善が見られた。170回以上更新中 【自己評価 B】</p>
<p>⑥学校経営 ○組織的な学校経営を通して、「進学指導特別推進校」としての使命を果たすとともに、「都立高校改革推進計画・新実施計画・都民ファーストでつくる「新しい東京」」の実施により魅力ある学校を構築し、都立高校としての責任ある地位を確保する。 ○ ライフ・ワーク・バランスの推進</p>	<p>ア 組織的な学校経営の向上に向けて、学校経営指標（執務ガイドライン、OJT診断基準等）を活用した学校経営を推進する。 イ 全教職員が「進学指導特別推進校」としての使命感を持ち（魅力ある人づくり、国公立倍増）、組織として学校全体の向上を目指す。 ウ 教員の資質向上のため校内外研修を実施し、授業力、生徒理解力の向上、また、サービス事故防止研修を通してサービス事故0を実現する。 エ 経営企画室は、経営参画意識をもち、教員との連携を強化し、学校全体で一体となって経営企画室の円滑な運営にあたる。また、自律経営推進予算を編成・執行・管理を行い、校長の学校経営の実現を図る。 オ 持続可能な社会の発展に向けた環境教育の推進（ESD教育の推進）。 カ 安全・安心な施設管理等を行うとともに良好な教育環境を維持する。 キ 保護者や地域住民の声を反映した「開かれた学校づくり」を推進する。 ク 「都立高校改革推進計画・新実施計画・都民ファーストでつくる「新しい東京」や「経営参画ガイドライン」に基づいた学校経営計画を推進する。 ケ 人権尊重を推進し、暴言や体罰防止等に取り組み、サービス事故防止を図る。 コ 経営企画室の執務室及び管理倉庫を適切に管理し、効率的な執務室環境及び管理倉庫の管理を行う。 サ 海外交流事業等に取り組み、グローバル人材の育成を図る。</p>	<p>ア 生徒、保護者、都民の期待に応える学校として引続き、執務ガイドライン、OJT診断基準等を活用し、全教職員が一丸となった学校運営を行う。 イ 進学指導特別推進校としての使命を職員一人一人が自覚し、「町田高グランドデザイン」の下、知識技能の定着、思考力・判断力・表現力の育成、主体性・意欲の喚起に向けて取組んだ。 ウ アクティブ・ラーニング、学校評価、予備校と連携した研修会、サービス事故防止研修等を実施した。サービス事故防止については、会議ごとに注意喚起と意識の啓発を行い、学期ごとに充実した研修を実施した。 エ 教員と行政系の職員が連携協力を図って校務の円滑な運営を行った。行政系の職員が、広報活動に参加している。予算編成、学校行事等において連携を強化した。 オ 行政系職員と教員が連携協力して、ゴミの分別指導を行い、環境教育を推進した。光熱費の見える化、キャップのリサイクル運動など、学校全体の取組を行っている。 カ 定期的な巡回、迅速な補修、対策などを講じ、安全対策を徹底するとともに、教育環境の整備を行った。 キ PTAの運営委員会、学校連絡協議会等において情報交換を行い、本校からの情報の発信に努めた。町田市の防災会議では多くの地域の代表の方にお越しいただき、防災倉庫等の視察や貴重な意見をいただいた。 ク 教員と経営企画室が連携して経営参画に積極的に取組んだ。 ケ 年間を通して、企画調整会議、職員会議、校内研修等において人権尊重の精神を浸透させ、特にサービス事故防止の徹底を図った。 コ トヨタの5Sに基づいた管理を行い、業務の効率化を図った。 サ 海外語学研修では昨年度の80名上回る105名から参加規模があり、抽選で参加者をしぼった。次世代リーダー育成事業では2名が現在留学した。東京体験スクールによる</p>

	<p>シ 計画的な仕事の進め方により効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。</p>	<p>留学生受け入れは、ホームステイを受け入れ体制が整わず斡旋がなかった。</p> <p>シ 会議の実施曜日を決め、計画的・効率的な会議を推進。会議は必ず5時までとし、教職員のライフ・ワークバランスの実現を図ったが、1月の勤務時間外の在校時間が80時間を超えた教員が10名近くいたが年度末には4名減少させることができた。</p> <p>【自己評価 A】</p>
--	--	--

(2) 重点目標の取組みと自己評価

教育活動・重点目標	方策・数値目標	平成31年度の取組と自己評価
<p>①学習指導</p> <p>○言語活動能力の向上</p> <p>○学力スタンダード等で学力向上の強化</p> <p>○家庭学習時間の確保と実践的な指導</p> <p>○教材の開発、指導内容や指導方法等の工夫による授業改善で生徒の学力を向上</p> <p>○積極的なICTの活用</p> <p>○AL推進校等としてAL型の実践的授業の実施</p>	<p>ア 言語活動能力の向上を図るため、各教科での読書・討論や発表などの授業実践。</p> <p>イ 定例教科主任会で教科間の連携を図るとともに、学力スタンダード等の実施により、計画的に学力向上を推進。</p> <p>ウ 平日、週休日、長期休業日等における学習棟や図書館等の活用を行い、自学・自習の環境づくりと学習する集団づくりを推進し、家庭学習時間を十分に確保させる指導の実践。</p> <p>エ 相互授業見学、教科研修、校内外研修、授業評価等の研修会の実施。</p> <p>オ 興味・関心を高め、分かりやすい授業を推進するために、ICT機器を活用した授業を積極的に実施。また、ICTを活用した効果的な教材の開発、教材研究等を実施。</p> <p>カ 学力スタンダードに基づいた校内学力調査の実施（1・2年生：各2回）</p> <p>キ AL型の授業研究について、計画的・組織的に推進し、調査研究や実践報告会を開催。</p> <p>ク 言語活動能力の向上、AL推進校、理数研究校、海外学校間交流推進校、国際交流リーディング</p>	<p>ア 1・2年生に毎月の課題図書（新書・小説）を提示した。1学年全員参加の「書評合戦」を実施。また、夏の読書月間の成果を「本の紹介」というタイトルで文化祭において発表した。次世代リーダー育成道場の帰国生徒による英語のスピーチによる報告会を行った。全ての教科で、生徒の発表の機会を設定し、言語活動を充実に向けた取組みを行った。また、1学年において言語活動講演会を実施した。</p> <p>イ 教科主任会を月ごとに定例で開催し、学力スタンダードを活用した計画的な学力向上を図った。補習・補講委員会を設置し、期末考査後の組織的な講習の実施に向けて組織的に取組んだ。</p> <p>ウ 入学者選抜実施日を除き、平日は午前7時30分から午後8時まで、週休日・休日は、午前9時から午後6時まで毎日開放し、進路指導部と各学年担任を中心に、学習する集団作りを推進した。</p> <p>エ 相互授業見学、アクティブ・ラーニング研修、高大接続研修など、教員による実践発表・研究協議、識者による講演・講評を行った。指導教諭による模範授業と研究協議を開催した。</p> <p>オ ICT機器を活用した授業を全国に公開し、研究協議、及び識者による講評と講演を行った。情報モラル推進校として授業実践を計画的に実践した。</p> <p>カ 学力スタンダードに基づいた分析を教科主任会で実施し、対応策を講じた。大学共通テストに求められる学力を調査問題に導入した。</p> <p>キ AL型授業を全国に公開し、研究協議、及び識者による講評と講演を行った。3回の校内研修を行い、実践発表・協議、講演会を行った。</p> <p>ク 各推進校事業についての本校で策定したプランに応じた取り組みを積極的におこなった。</p>

	<p>校、英語教育推進事業、持続可能な社会づくりに向けた教育推進校、情報モラル教育推進校等の確実な実施</p> <p>〔数値目標〕 自学自習時間：平日平均 学年＋2時間以上とする。</p> <p>1年生 平日平均 3時間以上が30%、土・日 4時間以上が60%</p> <p>2年生 平日平均 4時間以上が40%、土・日 5時間以上が70%</p> <p>3年生 平日平均 5時間以上が50%、土・日 6時間以上が80%</p>	<p>【数値目標実績】</p> <p>3年生は、概ね達成できているが、1・2年生が課題である。自主学習時間の調査については、調査項目の工夫を行いながら、定期的実施していくことが必要である。</p> <p>また、家庭学習時間の増加に向けた全校指導体制、家庭との連携強化を図っていくことも必要である。</p>
<p>②進路指導</p> <p>○国公立大・難関私立大学への進学希望の実現</p>	<p>ア 「個別面談」・「三者面談（全クラス）」、「学習進路相談」を確実に実施</p> <p>イ 進路指導部、学年等による「進路だより」の定期発行。</p> <p>ウ 定期的に学年集会、進路講演の実施。</p> <p>エ 土曜特進講習、夏の学校、春の学校、実力テスト（各学年）、朝・放課後の補習講習、土曜講習、夏冬春季講習、特別講習の実施に向けた早めの計画の策定及び生徒への周知で学習する集団を構築。</p> <p>オ データ分析に基づいた学習指導や進路指導により、学年分析会、模試分析会、出願検討会等を充実させ、確かな進路指導を行う。また、進路説明会を頻繁に開催し、進路指導を充実。</p> <p>カ 外部機関と連携した教員の指導向上及び生徒の学力向上に向けたきめ細やかな指導。</p> <p>〔数値目標〕 講習年間：1500時間以上（H29:1138時間 H28:1130時間 H27:1013時間）</p> <p>センター試験総合得点率80%以上、受験者の20%以上（H29:9% H28:16% H27:10% H26:8%）</p> <p>現役大学合格者 国公立大60名（H29:55名 H28:46名 H27:44名 H26:35名）</p> <p>難関私大60名（H29:50名 H28:48名 H27:40名 H26:31名）</p>	<p>ア 個人面談、三者面談を通して、国公立大学及び私大の出願指導を行った。来年度は全校的な面談週間の設定を行う。</p> <p>イ 各学年及び進路指導部によって、月1回以上の進路だよりを発行し、情報の発信と提供を行った。</p> <p>ウ 長期休業前や模試返却など、適切な時期に効果的な学年集会や予備校講師による講演会を実施した。</p> <p>エ 1・2年土曜特進講習を計画的に実施した。3年では、土曜講習、夏季講習、冬季講習、センター試験後の講習など生徒のニーズに合った多くの講習を実施した。</p> <p>オ 学年担任だけでなく、全教員の参加による模試分析会を実施した。</p> <p>カ 教員の予備校研修、外部機関による講演・研修、3・2年生に対する予備校による特別講習を実施した。</p> <p>【数値目標実績】</p> <p>講習時間1148時間（H30:1138時間 H29:1130時間）</p> <p>センター試験（5-7型）総合得点8割以上は12%（H30:9% H29:16% H28:10%）</p> <p>国公立大合格45名（H30:44名 H29:55名 H28:46名）</p> <p>難関私大（早慶上理）合格38名（H30:42名 H29:50名 H28:48名）</p>
<p>③生活指導・健康づくり</p> <p>○道徳心を高める実践的な教育を行い、日本人としての誇りと自覚の涵養</p>	<p>ア 授業、部活動や学校行事等の特別活動を通して、日常的に道徳心を高める実践的な教育を行い、人としての在り方・生き方を考えさせ、道徳的实践力を育成。</p>	<p>ア 生活指導部と各学年が連携を密にして、全校集会や学年集会を効果的に開催し、指導した。登・下校時の指導を継続的に実施した。道徳心を持たせる組織的な指導が課題。</p>

<p>○生徒の自律的生活習慣の確立 ○プライドと思ひありのある生徒の育成 ○基礎体力の向上 ○生徒の実態を踏まえた発達障害教育の推進 ○ 面談習慣や全校集会等を活用した命の教育の推進</p>	<p>イ 全校集会、学年集会、各学年、学級等で遅刻、服装・頭髪、挨拶励行に関して継続的に丁寧な対話型の指導により、「時を守り、場を清め、礼を正し、学びに向かう」ことを実践的に指導し誇りを涵養。 ウ 教職員自ら挨拶の励行に努め、明るく活気のある雰囲気づくりへの取組。 エ 全校・学年集会、授業、部活動、学校行事等を通して、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取組み、プライドと思ひありのある生徒の育成。 オ 年3回以上の大掃除を軸とした校内美化の実践。 カ 「総合的な子供の基礎体力向上方策」を活用して、早期から基礎体力向上に取り組み、多くの種目等で全国平均を向上。 キ 発達障害等の特別な支援が必要な生徒について、SC、外部機関、保護者との連携を図り、教育相談会議やケース会議の開催を通して支援を実施（ケース会議に向けた個別指導資料の作成）。 ○個別面談を実施するとともに、長期休業の前後には、全校生徒に向けた集会等により命の大切さについて講話等を行い自他の命を大切に教育を推進。</p>	<p>イ 挨拶、服装などの基本的な生活習慣はほぼできている。また、5分前行動を各学年で徹底した。歩きヘッドホンやスマホの利用時間などが課題。過去のハローウィン等でのけじめのない行動等はなくなった。 ウ 教職員自ら挨拶の励行をほとんどの教員が意識し行っている。 エ 年間を通して全校・学年集会、授業、部活動、学校行事等を通して、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取組んだ。生活指導部と学年の連携により、年3回のアンケート調査を実施し即時分析を行い、早期対応を行った。 オ 校内美化の取組を計画どおり5回以上行った。 カ 体育理論から持久走の実施まで、系統立てた体力強化を図っている。生徒が自ら授業計画の中に体力向上を組み込んでいけるような指導に注力する。全国平均を上回った種目は1種目、東京都平均を上回った種目は5種目であった。 キ 学校全体で生徒観察を注意深く行い、生徒保護者との相談を経て、教育相談委員会において考査の特別措置などインクルーシブな対応を協議、実行した。 ○SCと養護教諭・担任の連絡を密に行った。特に学期始期においては、気にかかることを共有し、家庭訪問や保護者面談等を繰り返し、連携を図った。</p>
<p>④特別活動 ○生徒の主体的活動を支援し、HR・部活動・委員会活動を活性化 ○開かれた教育活動 ○防災教育を通して、自助・共助の精神を醸成 ○オリンピック・パラリンピックの精神を涵養</p>	<p>ア 生徒が学習、部活動・学校行事等に「切替えと集中」でもって取組み、成就感、達成感が得られるよう指導の充実を図るとともに、時間について自己管理能力を高める指導。 イ 生徒が各行事、委員会等を主体的に計画、運営できるよう粘り強い支援・指導により、生徒の「自主・自律」の精神を涵養し、良き「伝統と創造」を再現。 ウ HR通信・学年通信の発行や地域・保護者による学校参観を通して積極的に教育活動を発信。 エ 防災訓練（4回）、宿泊防災訓練、救命講習などの実践的な訓練、また防災ブック「東京防災」や防災ノート、防災講演会などを</p>	<p>ア 生徒が学習、部活動・学校行事等に「切り替えと集中」でもって取組み、成就感、達成感が得られるよう時間の自己管理等の指導を行った。 イ 生徒が各行事、委員会等を主体的に計画、運営できるよう粘り強い支援・指導により、生徒の「自主・自律」精神を涵養した。 ウ HR通信・学年通信の発行を推進した積極的な情報発信に努めた。さらなる情報の橋員のため掲示板の増設などを計画している。 エ 防災訓練（4回）、宿泊防災訓練、救命講習などの実践的な訓練を実施。防災ブック「東京防災」や防災ノート、防災講演会などを通して、自助・共助の精神を醸成し、地域</p>

	<p>通して、自助・共助の精神を醸成し、地域社会のリーダーとして活躍できる人材を育成。</p> <p>オ 保健体育などの教科、学年集会、全校集会等でオリンピック・パラリンピックの意義についての学習、調査発表、講演会等を実施。</p>	<p>社会のリーダーとして活躍できる人材の育成を図っている。</p> <p>オ 保健体育などの教科、学年集会、全校集会等でオリンピック・パラリンピックの意義についての学習、調査発表、講演会等を実施。</p> <p>【自己評価 A】</p>
<p>⑤広報・募集活動</p> <p>○町高の教育活動・魅力を広く地域や都民に紹介するための広報活動の充実</p> <p>○組織で取り組む学校PRの強化</p>	<p>ア 学校見学・学校説明会、塾等での説明会を組織で計画的に実施・内容の改善、HPの充実。</p> <p>〔数値目標〕</p> <p>更新年間 150回以上 (H29:151回 H28:125回 H27:120回 H26:60回 H25:48回)</p> <p>イ 中学生部活動体験・高校授業体験、訪問授業、地域イベントへの参加等を推進</p> <p>〔数値目標〕 入試応募倍率</p> <p>推薦 3.0倍 (H29:2.38倍 H28:2.92倍 H27:2.11倍 H26: 2.63倍 H25: 2.96倍)</p> <p>学力 1.6倍 (H29:1.39倍 28:1.44倍 H27:1.42倍 H26: 1.5倍 H25: 1.72倍) ※学級増</p>	<p>ア 近隣地区中学校に主幹教諭・分掌主任による訪問は実施せず。学校見学会参加人数 1,681名。学校説明会参加人数 1,169名、(昨年度それぞれ、1,773名と 1,455名)。授業公開年間 863名(昨年度 1,035名)すべてにおいて昨年度の数値を下回った。</p> <p>HP 更新回数 170回(昨年度 150回)。目標を達成できた。</p> <p>イ 中学生部活動体験、高校授業体験、訪問授業、地域イベントは依頼のあったものは全て受入れた。</p> <p>【数値目標実績】</p> <p>入試応募倍率</p> <p>推薦 1.73倍 (H30 推薦 2.27倍 H29 推薦 2.38倍)</p> <p>学力 1.23倍 (H30 学力 1.52倍 H29 学力 1.39倍)</p> <p>【自己評価 C】</p>
<p>⑥学校運営</p> <p>○全教職員の学校運営参画意識の向上</p> <p>○校内研修の充実</p> <p>○ ライフ・ワーク・バランスの推進</p>	<p>ア 執務ガイドライン、OJT診断基準に基づいた学校運営を通して、教職員の組織マネジメント能力を向上させ、全教職員の学校運営参画意識の向上とマネジメントの実践。</p> <p>特に、校内組織のPDCAの実施による進行管理、チェックアクションの確実な実施(前後期年2回の実施とその活用)。</p> <p>イ 進学指導特別推進校として国公立倍増計画の実現に向けて「町田高校グランドデザイン」の確実な実施。特に、キャリア教育の充実と生徒のキャリア形成、海外語学研修や留学生の受け入れ等による魅力ある学校づくりを推進。</p> <p>ウ AL研修を計画的に推進、外部機関と連携した教科指導力向上の研修、サービス事故防止研修等により教職員の資質・能力の向上。</p> <p>エ 職員会議やサービス事故防止研修</p>	<p>ア 執務ガイドライン、OJT診断基準を企画調整会議、職員会議で浸透させ、基準に基づいた学校運営を行い、業務遂行を通じた人材育成に努め、職員の経営参画意識の向上を図った。</p> <p>各分掌・学年で立てたプランに対し、チェック&アクションを実施し、次年度プランに活かしていく。</p> <p>イ 進学指導特別推進校として「町高アクションプラン」の着実な実施に取り組んだ。進路指導部、高大接続改革・大学入学共通テスト委員会、補習・補講委員会による年間計画に基づいた学力向上、進路指導を実施。さらに、部機関による講演、講習などを実施。今年度末には新型コロナウイルス感染症対策のため、海外語学研修(アメリカ合衆国: カンザス州)を中止した。参加者増により令和2年度についての新たな計画を構築中。</p> <p>ウ チェック&アクションの確実な実施と次年度の改善事項について学校運営連絡協議会で協議を行った。</p> <p>エ 年間を通して、企画調整会議、職員会議、</p>

	<p>等を通して、暴言や体罰の根絶に向けた取り組みを行い、教員としての職責を自覚。また、魅力ある教師を目指して日々、研修・研究を推進。</p> <p>オ 指導教諭等を活用した校内研修により、授業改善に取り組み、生徒の学力向上を実現。</p> <p>カ 経営企画室は、校長の学校経営を補佐するとともに、研修会やOJTの推進を通して適正な事務を実施。特に、自律経営推進予算の執行や広報活動では、文武両道、進学向上を図るための予算執行や都民目線に立った広報活動へ参画し、校内外の広報活動への参画を強化。</p> <p>キ 環境教育等により持続社会の発展に向けた教育を推進。ゴミの分別・削減、節電の実施。</p> <p>ク 「トヨタの5S」による経営企画室の執務室及び管理倉庫を適切に管理、安心安全確保。</p> <p>ケ 次世代リーダー等の留学事業、海外語学研修、留学生の受入れでグローバル人材を育成。</p> <p>コ 分掌主任や事業担当者による進行管理により業務を効率的に実施。会議を効率的に開催するため、会議の上限を設定、また資料の効率的な配布やICTの効率的な活用。計画的な仕事の進め方により業務の効率化を行い、教職員の在校時間を縮減</p>	<p>服務事故防止研修等において、職務の適正化を図った。</p> <p>オ 年間を通して指導教諭による模範授業と研究協議を実施した。また、本校から他校の模範授業参観等に派遣した。</p> <p>カ 行政系職員の広報活動として、広報誌の配布、印刷の手配等対応の早さ等効果的に行った。 ICT及び海外語学研修に予算が割かれる中、計画的な予算執行を行い、授業や行事等で支障が生じることはなかった。</p> <p>キ ごみの散乱などは見られないが、分別の意識（区別の基準の周知・徹底）はさらなる向上が必要。</p> <p>ク 経営企画室等の管理倉庫等の整理と再整備を実施。適切な管理を図っている。</p> <p>ケ 次世代リーダーに1名応募。不合格。東京体験スクールによる短期間の留学生受け入れは、ホームステイ付きで応募しなかったため、短期留学生の斡旋がなかった。</p> <p>コ 職員会議の定時終了は徹底できた。年間計画で会議の日時、曜日をすべて示し、計画的に会議の進行したことにより、効率的な業務の遂行を図れた。教員の在校時間の長さが課題である。</p> <p>【自己評価 A】</p>
--	--	--